

WOC2005,注目度上昇中!

2005年世界選手権準備委員会/事務局長 落合公也

2005年の世界選手権誘致決定から8ヶ月。世界選手権は、関係者の努力で少しずつ注目度を増しつつある。もちろん、黙っていても世間は注目してくれない。WOC2005が注目を集める背景には、準備委員会事務局長の落合氏をはじめとする関係者の地道な活動があった。

わずか1月で7回の露出

世界選手権の開催が決まって以来、愛知県内においてはオリエンテーリングに対するメディアの注目が増えています。このことが一気に顕在化したのはこの1月でした。わずか一月の間に、新聞では3社で6回、テレビでは1回の露出がありました。

まずは年明け早々に世界チャンピオンの来県と日本代表合宿について3社で報道していただきました。「世界チャンピオンの来日」というニュースリリースでしたが、期待以上に反応が良かったです。当初、本社と三河方面の支局にしかリリースを送っていなかったのですが、ぼくの住んでいる地元支局の記者からもらった年賀状を見て、一応連絡しておこうかなと軽い気持ちで元旦にFAXを入れておいたら二日の夜に取材に来て下さいました。また日本代表合宿を2005年世界選手権の開催地でおこなっていただけたおかげで、合宿場所の作手村まで取材がありました。この作手村では3月に今年度のインカレが開催されます。インカレでも同様に取材が予想されます。

1月の記事でとてもうれしかったことは世界選手権の紹介をしてくれた二つの記事です。この記事は、世界チャンピオンと代表合宿の取材に来て下さった二人の記者が、そのとき始めて世界選手権のことを知

って、すぐに書いて下さったものです。一つは紙面の四分の1にもなるスペースで詳細に記してくれました。

関心集める、オリエンテーリングらしさ

さらにもう一方は、記事ではなくコラムですが、「恥ずかしながら、知らなかった」という書き出しで、世界選手権の開催やオリエンテーリングというスポーツの紹介がありました。さこでは、山野を舞台とするオリエンテーリングが、都会人が山村への関心を高めるきっかけになり、山村の賑わいや、森林の手入れ、自然の乱開発監視のきっかけになるんじゃないかと、このスポーツの効果を説いて下さっています。そして最後に「さあ、森へ行こう」と呼び掛けてくれました。

もう一回の新聞掲載は岡崎オリエンテーリング大会の記録です。

テレビは日本代表選手でもある落合志保子の紹介でした。夕方のニュース番組の中で地元のスポーツ選手を紹介するコーナーで取り上げてもらいました。こちらは偶然に取材依頼がありました。

新聞で世界選手権の記事が25日と27日の掲載、テレビが26日放映でした。全く別々の報道機関が偶然にも三日連続してオリエンテーリングを扱うというのは全く持って信じられない出来事でした。

ここまで大きな扱いになっているのは、まだ5年先とはいえ国家的一大プロジェクトである万博と時期を同じくして、同じ県内で世界選手権がおこなわれるからこそにほかなりません。さらに都合のいいことに、「環境」をテーマにする万博と自然の山野で競技をおこなうオリエンテーリングとに共通性があるからです。

報道機関としても、万博に関連するニュースは積極的に取り上げていこうという姿

勢があるそうです。一方でニュースにするネタがないという悩みもあるらしく、格好の素材を提供している形になっています。うまく時流に乗れた感じですよ。

世界選手権に向け、幸先のよいスタート

これだけオリエンテーリングのことを扱ってもらえると、間違いなく確実にこれまで知らなかった人に「オリエンテーリング」を知ってもらえる機会にはなっていると思います。世界選手権があるということで、県内での普及が必須なこととはいえ、幸先良くスタートが切れたという感じです。この調子は何とか維持できるように努めておいて、次は関心を持ってもらった人にどうやってイベントの情報を送り届けるかが課題です。

万博と世界選手権という切り口によってここまでの扱われ方がされていることは否定できません。けれども本当に必要なことは、このスポーツが一般社会に対してできる貢献です。そのところが説明できてこそニュースとしての価値が生まれてくるのではないかと思います。また愛知県の場合、きっかけは万博であったわけですが、全国どこでも地元で盛り上がるイベント（国体、全国植樹祭、緑化フェア...）などに関連づけたオリエンテーリングイベントの実施にもチャンスがあるのではないかと思います。マイナースポーツだからと決して卑下することはありません。愛知で吹き始めた風は、この新しい世紀だからこそ全国に広がる可能性があると思います。

